８月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

2019年８月22日
京都学・歴彩館
075−723−4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度８月１日（木）～８月２２日（木）にかけて「ちょっと不思議な古代日本ー律令国家を考えるー」と題して、３回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０１９年 8月1日・8日・２２日　（＊１５日は休講）
いずれも木曜日１３：３０～１４：００

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ

■ 参加者数　　３４名（１日）、３４名（８日）、３９名（２２日）　合計　１０７名

■ 内　　容
講師　　京都府立京都学・歴彩館　京都学推進課　吉岡直人
「ちょっと不思議な古代日本ー律令国家を考えるー」（全３回）
第１講　強力な中央集権国家ってどーゆーこと ～若狭の塩のはなし～
第２講　文字を使った全国統治 ～律令文書主義とその内実～
第３講　とってもまじめなお役人さん？？

■ 講座の様子
現代に生きる我々が１０００年以上昔の日本について知りうる出来事は、ほんの一握りにすぎない。しかし、そのほんの一握りの事実から描き出される古代律令国家像は、列島各地に国家意志を伝達して統治する極めて強大なものである。その強大さの反面、現代の我々からすると不思議だと感じる側面もある。８月のミニ講座では、律令国家の強大さや不思議な側面について、若狭国の塩生産、文字を使った国家意志の伝達、下級官人の働きぶりという３つのトピックから講義した。高校までの日本史では語られることがない話題を通じて、曖昧模糊とした律令国家像が、少しずつはっきりとした輪郭をもって描き出される内容であった。
外気温が３５℃を越え、暑い日が続く中、参加者が向ける熱い視線と講師の熱を帯びた講義が相まった今月のミニ講座は、各回３０名を越える参加者を得て、成功裡の内に終えることが出来た。